＜認知症対応型共同生活介護用＞

評 価 結 果 報 告 書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2571500194
法人名	株式会社 ドリエジョ
事業所名	ゆめさと グループホーム
訪問調査日	平成 22 年 7 月 28 日
評価確定日	平成 22 年 8 月 20 日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 8月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	2571500194
法人名	株式会社 ドリエジョ
事業所名	ゆめさと グループホーム
所在地	滋賀県蒲生郡日野町西大路字井上434－2 （電 話）0748-53-8722

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2階		
訪問調査日	平成 22年 7月 28日	評価確定日	平成 22年 8月 20日

【情報提供票より】（ 平成22年7月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	18 人	常勤17人（専任12、兼務5） 非常勤1人 常勤換算15.95 人

（2）建物概要

建物構造	木 造 造 り
	1 階建ての 1 階 ～ 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	40,000 円		その他の経費（月額）	46,000 円
敷 金	有（ 円）		○ 無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	○ 有（ 200,000 円） 無		有りの場合 償却の有無	○ 有／無
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり	1,200 円		

（4）利用者の概要（ 7 月 1 日 現在）

利用者人数		18 名	男性	2 名	女性 16 名
要介護1		名	要介護2	8	名
要介護3		4 名	要介護4	4	名
要介護5		2 名	要支援2		名
年齢	平均	87 歳	最低	80 歳	最高 92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	鎌掛診療所、 住井歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームには「しゃくなげ」、「あじさい」の2ユニットがあり、同じ建物内にデイサービスを併設している。「主役は利用者」、「家族や地域との交流を図る」を基本理念にしている。利用者や職員から笑顔が絶えず、明るく家庭的な雰囲気が漂う事業所で、家族の信頼も厚い。医療連携体制加算事業所として、提携医療機関や看護師とも緊密な連携を取りながら、日々の健康管理や医療活動を充実し、緊急時や重度化にも備えている。周囲は田んぼと畑に囲まれ、静かな環境の中で利用者は両ユニットの中庭に咲いている季節の花を愛でながらゆったりとした時を過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回の改善課題であった「運営推進会議」は5月（新年度スタート月）から2カ月に一度実施している。今後とも 隔月実施は必ず守るとの固い決意である。もう一つの課題「全利用者の水分摂取量管理」についても改善がみられ、全利用者の介護記録に記入するようになった。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 全職員から自己評価に対する意見を聴取、次に責任者が中心になって自己評価案を作成し、その後会議に諮って全員参加の自己評価を完成した。自己評価に外部評価結果も加えて改善行動に結びつけるよう取り組んでいる。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議の出席者は、民生委員（3名）、老人会会長、区長、地域包括支援センター職員、町職員、事業所責任者で、会議では利用者の状況報告、行事、地域活動や評価結果などについて意見交換が行われ、業務改善や地域との連携強化など事業所の運営改善に活かしている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 毎月の請求書に同封して利用者の暮らしぶり、受診結果、預かり金の収支や広報誌などを家族に送付している。意見苦情の申し立ては重要事項説明書に事業所および外部機関の窓口を明記し、家族に知らせている。玄関に意見箱を設置するとともに家族会を結成し、家族交流会の場や家族の訪問時を活用していろんな角度から家族の意見を吸い上げ運営に活かしている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 地域向け広報誌「ゆめさと広場」を年4回発行するとともに、自治会に加入し、納涼祭などの行事には積極的に参加している。地元のボランティア受け入れや、事業所が公民館で認知症についての講演会を実施したり、事業所の見学会に応じるなど多くの地域貢献に取り組み、地域との連携を年々強めている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「主役は入居者、ゆっくり個々の生活を大切に、笑顔と愛情ある安らいだ家庭をつくる」、「入居者が社会参加する喜びを感じていただけるよう、家族や地域との交流を図る」との基本理念は地域密着型サービスに根差した事業所独自の目指す姿を表している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を大きく掲示し、月1回の職員会議（ユニット会議、リーダー会議）ではつねに「理念にもとづく行動の実践」を最優先するように指導している。管理者や職員の話の中にも、理念の共有、実践に力強く取り組んでいこうとする姿勢が伺える。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員の中に地域の人が5人もいるのが心強い。自治会に加入し各種行事に参加する一方、事業所主催の夏祭り（本年は8/28）に地域の人々を招待したり、小学校や保育園と交流するなど地域とのつながりを強めている。基本方針にも「地域への積極的な参加で馴染みの仲間作りをする」と明記している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体ミーティングの場で一般職員の意見を取り入れて自己評価を実施している。外部評価結果は事業所内職員会議や運営推進会議で説明するとともに、課題についてはリーダー会議で十分に検討し、その結果を職員に徹底している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月スタートの本年度から隔月実施を遵守している。民生委員、老人会、区長、包括支援センター、町職員や事業所責任者が出席し、利用者の状況報告、地域活動、行事や評価結果などを熱心に検討する中で事業所の業務改善や地域との連携強化に活かしている。		メンバーに家族代表を加えることを検討してほしい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日野町の介護支援課や甲賀市の保険課とは利用者の状況報告や制度改革に伴う質問などで連携し、助言を得るなどしてサービスの質の向上や問題解決に取り組んでいる。ボランティアの関連で、社協とも連絡を密にしている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月々の請求書に利用者の様子、健康状態、預り金収支などを同封するとともに、広報誌「紫陽花と石楠花」を3ヶ月毎に発行し、利用者の様子などを写した「ゆめさと写真館」を随時添えている。なお、利用者の体調変化などの緊急時には電話連絡で対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や家族交流会（年3～4回のイベント）、敬老祝賀会（9月）、玄関の意見箱などを活用し、意見や要望を聞き出すように努力している。また相談、苦情申し立てについての内部・外部窓口については重要事項説明書に記して家族に知らせている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本年の4月に職員のユニット間異動を実施したが、引き継ぎに半月～1ヶ月をかけて利用者へのダメージを極力減らして職員がお互いに緊密に連携しながら対応した。離職を抑える努力として日頃から運営者と職員間は良好なコミュニケーションの関係を築くよう努力しており、その連携プレーはスムーズに行われている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年は介護福祉士試験に2名合格した。現場での実地指導や法人内外の研修を受ける機会を設けているが、各人の中・長期の計画的な人材育成からすると、十分とは言い難い。	○	計画的な人材育成の観点から、全職員について個人別の中・長期人材育成計画を立て、個人面談でキチッと本人に動機づけを実施して、事業計画に組み込まれた形での人材育成を実践してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回実施される東近江介護サービス協議会・グループホーム部会主催の会議、研修や情報交換会に管理者や職員が参加するとともに、他事業所との相互訪問や情報交換を通じてヒントを得、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心し、納得した上でサービスを利用するために事前に家族と面談、いろいろな相談を実施している。場合によっては、併設のデイサービス利用やグループホームへの体験来所、さらにはショートステイなどで馴染むための期間を設けて、安心して入居できるように対応している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	基本方針に「入居者に教えていただく姿勢で手を添え、ともに自然に生活する」とあり、職員は利用者を人生の先輩として尊敬してケアに励んでいる。昨年から食事供給やチェア浴活用など業務体制の見直しを実施し、利用者担当職員がより多くの時間を利用者と共有できるように改善した。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向の把握に努めるとともに、意向表出が困難な利用者についても日常生活の中から利用者のやりたい事や楽しみ事を把握するとともに、家族とのヒアリングの中から本人が得意としていたことなどを聞き出し、ケアに取り入れるよう努力している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	「ケース記録」「介護記録」「ミーティング」「医師の往診結果」などの総合判断と家族との話し合いにより、『ゆめさとドリームプラン』を作成し、それを基本に長期および短期サービス目標、サービス内容を明示した介護計画を作り上げ、家族の承認印を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し期間は3ヶ月としているが、利用者に状況変化が生じた場合には即刻見直しを実施している。職員会議での意見をもとに、家族―医師―管理者で話し合い、変更が必要な場合には新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	健康管理面では、医療連携体制加算事業所として安心して任せられる。かかりつけ医の受診は基本的には家族付き添いとしているが、家族の都合がつかない場合や、要請があった時は事業所が送迎を行うなど、柔軟に対応している。時として利用者の買い物や、行きつけの美容院に同行する場合もある。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には本人や家族の希望で受診できるよう対応しており、現在はその利用者が3名いる。かかりつけ医と提携医との連携を密にし、本人や家族の意向に沿った適切な医療を受けられるよう配慮し支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算事業所として終末期ケアに対処する方針を決め、担当の職員も決めている。入居時には、「重度化した場合における入居者の対応の同意書」を家族に説明し文書に同意確認印を得ている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常のケアにおいてプライバシーに配慮した「声かけ」に留意している。事業者の守秘義務を「利用契約書」に明記し、家族に通知している。利用者関連の個人情報ファイルの保管場所は事務所ロッカーと決めている。プライバシーや個人情報の取り扱いについては職員会議などでの教育を実施している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活ペースに合わせることを優先して対応している。業務体制の見直しにより、利用者の担当職員は従来以上に余裕ができ、利用者と時間を共有することができ、一人ひとりのペースを大切にすることが可能になった。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	デイサービスから食事の供給を受け、ホームで盛り付け、配膳や後片付けを利用者も参加して行っている。ただし土、日曜日については、独自で食材を調達し、調理をしている。職員は弁当持参で、利用者の食後休憩時間に食べている。		平日は食事介助の必要性から職員の弁当持参は分かるが、土・日曜日の独自の調理日には職員も一緒に食事しながら利用者とのコミュニケーションを深める方向で検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には2日に1回の入浴としているが、これにこだわることなく、利用者の希望に合わせた入浴支援をしている。希望者は毎日でも入浴可能としている。また一般浴が困難な利用者には同じ建物内のデイサービスのチェア浴を利用している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者はちぎり絵、絵、デザイン、ぬり絵、毛筆、裁縫、歌、本を読む、オルガンなどの楽しみ事のほかに、調理、掃除、洗濯、畑仕事といったことを本人の「役割」として持ちながら、楽しんで暮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い季節には週2～3日の散歩、花見、紅葉狩り、家族との日帰り旅行や買い物など利用者個々の希望やその日の体調に合わせた外出支援を行っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関のカギはオープンであるが、居室は利用者本人の自由としている。屋内ではあるが、併設のデイサービスフロアへの往来は自由となっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急避難場所も確保し、災害時の対応マニュアルも整備している。消火避難訓練も年2回実施している。訓練時の消防署の立会いと指導を要請しているが、実現していない。地域への連絡網も完備していない。	○	年2回訓練のうち、1回は消防署の立会いと指導が受けられるように強く要望してほしい。緊急時には事業所と消防署と地域の連携が不可欠であり、地域への働きかけも引き続き推進してほしい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー計算したメニューの食事を提供している。水分摂取量については、毎日の利用者全員の量を介護記録に記入し管理するように改善した。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目を生かした食堂やリビングは落ち着きがあり、壁にはちぎり絵、ぬり絵、デザイン、書などの作品が飾られている。食堂やリビングから見える内庭のベランダにはプランターに植えた季節の花が咲き、目を和ませている。トイレや浴室も清潔に保たれ、居心地よく過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスは備え付け備品として事業所が用意したものを全員が利用している。居室には家族の写真、人形、趣味の品やテレビなどを持ち込み、それぞれくつろげる空間を作り上げている。		